

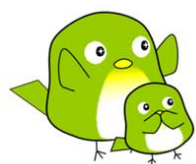
水木しげる氏

表紙絵

＝ゲタ飛ばし大会に出た鬼太郎＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・ 特集：子どもと読書 | 2～5 |
| ・ 『調布市立図書館50年の歩み』を発行しました | 6 |
| ・ FC東京選手の私のすすめるこの一冊 2018 | 6 |
| ・ 都立神代高等学校の生徒さんがポスターを描いてくれました ほか | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |



子どもといっしょに

ようこそ図書館へ



～ 図書館デビューしませんか？ ～

子どもと一緒に絵本を読んで楽しい時間を過ごしてみませんか。たくさんの本が並ぶ図書館は、親子を結びつける幸せな場所。お子さんが生まれたらぜひ図書館へ！

図 書館は、子どもと一緒に安心して過ごせる、たくさんの本との出会いの場です。大人のコーナーとは違う楽しさや発見もあります。絵本コーナーは「赤ちゃん絵本」「のりもの」「ちしき」などテーマごとに並んでいます。また、季節や行事に合わせた本の展示や、おすすめの本のコーナーなどもあります。

お散歩コースの途中に、ぜひ図書館へいらしてください。

図書館はいつでも皆さんをお待ちしています。

いっしょに**行**こう



いっしょに**選**ぼう



子 どもと一緒に来てみたけれど、どんな本が子どもに合うのかわからない…。そんなときは、お気軽にご相談ください。

「赤ちゃんは絵本がだいすき！」「子どものほん」など、おすすめの本のリストもお配りしています。



子 ども室には、小さな椅子やじゅうたんコーナーなど、子どもと読書を楽しめる空間があります。

図書館の利用カードは0歳から作ることができます。

少し大きいお子さんは、自分のカードで嬉しそうに本を借りています。

また、パスワードを登録すると、お子さんが借りた本の記録を残すこともできます。

いっしょに**読**もう

いっしょに**楽**しもう



図 書館では、0歳から入れる「0・1・2歳のおはなし会」と、3歳から小学生向けの「おはなし会」を実施しています。絵本の読み聞かせのほか、わらべうたや手遊び、ストーリーテリングなど、おはなしの世界を楽しめる会です。

おはなし会は、他の子どもたちとおはなしの世界を共有することで新たな喜びや発見があり、ご家庭で読んでもらうのとは違う楽しさがあります。

～ 子どもを本好きにするための4つのヒント ～

1

読んであげましょう

「字が読める」＝「物語を理解できる」ではありません。子どもが字が読めるようになってからも、読んであげる時間を大切にしましょう。

2

自分自身も読みましょう

大人が読書を楽しんでいる姿を見て、子どもも読書に興味を持ちます。「今日読んだ本、おもしろかったよ、あのね…」とお互いに伝え合える家族でありたいですね。

3

「賢くするための読書」はやめましょう

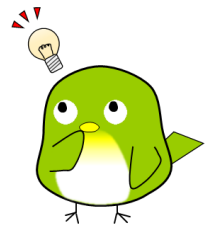
「本っておもしろいな」と感じることで子どもは読書に親しむことができます。読書を強制せず、その子の「お気に入りの1冊」を認めてあげましょう。

4

読書以外の時間も大切にしましょう

実際に自然に触れ、友達と遊び、様々なことに興味を持つことで、物語の世界に共感できます。

ご家庭で 読み聞かせをしましょう



絵本を通して，親子が楽しい時間を分かち合う「読み聞かせ」。

子どもの成長に，絵本の読み聞かせは欠かせません。

ここでは，読み聞かせに関するよくある質問にお答えします。

● 読み聞かせのコツ ～よくある質問から～

Q. 読み聞かせしてもじっとしていない。興味を示さないのですが。

A. 子どもは読み聞かせを続けていくことで，少しずつ楽しみ方を理解していきます。お子さんの年齢や興味にあった本を選び，気長に続けていきましょう。読み聞かせを通して，読み手は子どもとおはなしの世界を分かち合うことができます。

子どもがおはなしに集中できないときは，無理に聞かせようとせず，お互いに心地よくおはなしを楽しめるタイミングで行いましょう。



Q. 声色は変えた方がいい？ 言葉のなまりが気になります。

A. 絵本を読むときには，大げさな演技や声色で読む必要はありません。自分の自然な声で読んであげてください。なまりやアクセントも気にする必要はありません。ありのままの声で，心を込めてゆっくりと読むことが大切です。

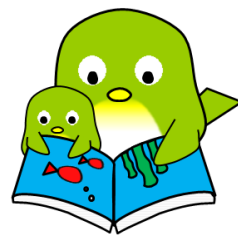
Q. いつも同じ本を読みたがる。何度も同じ本を借りたがります。

A. 子どもは自分の知っていることを繰り返し確認することで，安心を得ます。また，同じ絵本であっても，読むたびに新しい発見をしています。同じ絵本を読みたがるということは，お子さんが絵本からまだ得たいことがあるということです。ぜひ，何度も同じ本を借りて，満足するまで読んであげてください。その絵本は，お子さんの特別な一冊になってくれるはずです。

図書館では，絵本リスト『このほんよんで！第2版』（500円）を頒布しています。長い間，子どもたちに読み継がれてきた本を選んで紹介しています。貸出用もありますので，ぜひご利用ください。

保育園・小学校・児童館などで 絵本の読み聞かせをしている方へ

- ・どんな絵本を読んだらいいの？
- ・読み聞かせのコツは？
- ・おはなし会のプログラムが決まらない
- ・絵本や紙芝居、大型絵本をかりたい



など、困っていることはありませんか。ぜひ図書館へご相談ください！

●子どもの読書に関する **出前講座** をやっています

図書館員が講師となり、講座を行います。これまで開催した講座では、読み聞かせの意義、赤ちゃんが初めて出会う絵本、大人数の読み聞かせに向く絵本、絵本の持ち方・ページのめくり方、絵本と一緒に楽しめる手遊び・わらべうた、おはなし会の進め方などを取り上げました。

参加者の感想

- ・今後の読み聞かせの参考になった・疑問に思っていたことが解決できた
- ・読み聞かせの奥深さを痛感した・子どもたちが絵本の世界を楽しめるような読み聞かせ会ができるように楽しんで活動していきたいと思った など

●**団体貸出** をご利用ください

市内で活動している読み聞かせ団体やグループは、団体貸出登録をすることができます。1団体100冊まで、1箇月間貸出しします。絵本や紙芝居、大型絵本など図書館の資料をご活用ください。詳しくはお近くの図書館へお問い合わせください。



図書館では「第2次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの身近なところに本を届ける活動を支援しています。

毎年10月に「絵本の読み聞かせ講座」を開催しています。ぜひご参加ください。



『調布市立図書館50年の歩み』を発行しました

昭和41年に開館した調布市立図書館は、平成28年6月に50周年を迎えました。このたび、開館当時から平成28年度までの歴史をまとめた『調布市立図書館50年の歩み』を発行しました。

あらたに発掘した膨大な資料と写真によって、歴史の再調査を行うとともに、関係者の証言も集めました。また、調布市立図書館のほぼすべての業務を記録し、図書館学を学ぶ学生や図書館学研究者の方にも役立つものを目指しました。図書館では20周年誌から5年ごとに周年誌を発行していますが、その集大成となる1冊です。

中央図書館5階地域資料コーナーと全分館に所蔵しており、貸出も行っていますので、どうぞ手に取ってご覧ください。



FC東京選手の 私のすすめるこの一冊 2018

調布市は平成11年から「FC東京等とのパートナーシップによるスポーツ振興等の推進」を基本計画の中で掲げ、味の素スタジアム（調布市西町）をホームグラウンドとしているサッカーチーム、FC東京を応援しています。

調布市立図書館でも、地域ゆかりのチームや選手を通じてスポーツの振興と読書の推進をはかりたいと考え、図書館とFC東京が連携して本冊子を作成しました。

5回目の発行となる今回は「FC東京クラブ創立20周年記念号」として、各選手のすすめる本とクラブの20年間の歩みを掲載しています。

お気に入りの選手がどんな一冊を紹介しているのか、ぜひご覧ください。

小冊子は調布市立図書館全館で無料配布しており、図書館ホームページでもご覧いただけます。

中央図書館のFC東京応援展示コーナー（4階新刊コーナー前）では、掲載した本の展示と貸出をしていますのでどうぞお気軽にご来館ください。



ひらかわ れい 選手

『ハードワーカー勝つためのマインド・セッティング』
エディー・ジョーンズ著 講談社 2016

- ① MF40
- ② 平川 怜 選手（レイ）
- ③ 日本のラグビー界を変えたエディーさんの考え方が良く分かります。
- ④ J1のピッチで活躍できるように頑張ります！

★選手の皆さんの回答・凡例★

- ① ポジションと背番号
- ② 名前(ニックネーム)
- ③ 読んだきっかけ・時期・感想
- ④ 今シーズンの抱負

一例として紹介したのは、
調布市出身の平川選手
のページです！



都立神代高等学校の生徒さんが ポスターを描いてくれました



都立神代高等学校・現2年生の生徒さんが、図書館利用マナーの向上と利用促進を呼びかけるポスターを描いてくれました。

作品は1年生の時に美術の授業で描いたものです。

どの作品も完成度が高く、高校生の新鮮な感性と視点から描かれ、それぞれの図書館に寄せる思いが感じられる個性豊かな作品ばかりです。

中央図書館の中階段に、8月26日（日）まで掲示しています。

ここでは紹介しきれないたくさんの作品が並んでいますので、ぜひ来館してご覧ください。



♪ 神代高等学校 図書委員の生徒さんのおすすめ本♪ 『本の森』の展示を行いました



都立神代高等学校の図書委員の生徒さんが作成した、おすすめ本のリスト「本の森」に掲載された本の展示を、3月28日（水）から5月27日（日）まで中央図書館で行いました。

普段から本に接している図書委員の皆さんならではの、幅広いジャンルの本が選ばれ、紹介文に豊かな感性が溢れていました。



図書館の本の取扱いについてのお願い

図書館の資料は市民の貴重な財産です。返却された資料は、カウンターで汚破損の点検をします。本の状態によっては、お心当たりがないかお伺いさせていただくことがありますので、ご理解ご協力をお願いいたします。皆さんが気持ちよくご利用いただけるよう、以下の図書館利用マナーをお守りください。

- 図書館の資料は丁寧に扱ってください。
- 切り抜き、書き込み、付箋の貼り付けはしないでください。利用している本・雑誌に切り取りや書き込みを見つけた場合は、職員にお知らせください。
- タバコや香水の匂いが付かないよう配慮してください。
- 紛失、汚破損、水濡れ等には十分お気を付けください。（急な雨や、ペットボトルの結露で濡れてしまう場合があります。ビニール袋に入れるなどの配慮をお願いします。）
- 本を破ってしまった場合、ご自身で修理せずそのまま図書館にお申し出ください。（図書館には専用の糊やテープがあります。）
- 図書館資料を紛失・汚損されたときは弁償をお願いする場合があります。



えきびょう

疫病と村の信仰

関 口 宣 明

〈七夕の言い伝え〉

調布では、七夕に「ひと粒でもふた粒でも雨が降ったほうがよい。」と言われてきました。自分が書いた短冊に雨が落ちて、墨がにじめば、その年は病気にならないという言い伝えがあり、竹は翌朝、近くの川に流しました。これは昭和の初めごろまでの話です。今日では、七夕は短冊に願いごとを書いて星に祈る行事となっていますが、調布の言い伝えには、命を支える水の力で、疫病（伝染病）などの悪いものを流して清めようという人々の気持ちが表れています。

〈厄病神のしわざと考えられた伝染病〉

明治時代の多摩地方には、赤痢や疱瘡（天然痘）などの伝染病が流行っていました。

赤痢は、そのころの飲用、生活用水だった堀や井戸の水の汚れが大きな原因だったのですが、医療や衛生の知識が進むまでは、厄病神のたたりによるものだと考えられていました。

疱瘡も、子供が高熱などで命を落とすことが多かったので、特に恐れられていました。明治42年（1909）の種痘（ワクチン）定着で、この急性伝染病は影をひそめました。布多天神や国領、柴崎地区にまつられる「疱瘡神」の祠をみると、赤飯などを供えて、病気にならないように祈った村人の思いがうかがえます。

また、伝染病が流行ると、厄病神が入り込んだとして、村の外に追い払う「神送り」が行われました。富士見町の北のはずれには、戦後まで「神送り塚」という祠がありました。この場所は、旧下石原村と旧大沢村（三鷹）との境にあたり、明治時代以前には、そこへ厄病神を送ったと伝えられています。



布多天神の「茅の輪くぐり」

〈今に伝えられる厄除け行事〉

佐須地区では、毎年7月20日に「カドブセ」といって、外から悪しきものが入ってこないように、お寺で祈祷した御札を、昔の村境6ヶ所に立てています。また布多天神でも、6月25日に水神をかたどったとも言われる「茅の輪」をくぐって、厄除けを祈る行事があります。水神は、農村の米作りに恩恵を与える反面、洪水や疫病をもたらすと考えられていました。これらの行事は、地区の方々（檀家や氏子）が中心になって今でも行われています。身近な5月5日の菖蒲湯や冬至の柚子湯も、身を清めることで、一種の魔よけになると言い伝えられる習慣です。

農村から都市へと地域の生活が移り変わっても、未知なる災いに対する心配の種は尽きることがなく、こうした行事は形を変えながら現代に受け継がれています。

参考文献：『日本民俗事典』大塚民俗学会

『調布市史民俗編』『調布市百年史』

刊 行 物 番 号

2018-61

図書館だより 第248号

平成30年6月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>